

令和6度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」業務実務報告書

福島大学行政政策学類廣本ゼミ

1. はじめに

昨年度に引き続き、私たち福島大学行政政策学類廣本ゼミは、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の受け入れ集落として喜多方市熱塩加納大森集落を選択した。しかし、大森集落が70代以上の高齢者世帯が大半であること、人口が36人であることといった集落の実情から、集落単体では調査・支援として不十分であると判断した。そのため、大森集落に居住する野邊善市氏が会長となって熱塩加納町の地域おこしを行っている地域組織「夢の森花の散歩みち実行委員会」に調査範囲を広げ、本調査の活動フィールドとした。

今年度は以下の表の通り活動を行った。

表 年間活動一覧

日時	活動内容
3月10日	夢の森花の散歩みち実行委員会入会 そば打ち体験
4月21日	キクイモ植え付け ウワミズザクラ塩漬けづくり 耕作地整備、ザル菊植え替え
5月9日	ザル菊植え付け
7月7日	藍の生葉染め体験
8月12日	夢の森花の散歩みち盆踊り参加
9月14日、 9月15日	ヤマブドウジュースづくり
10月27日	夢の森花の散歩みち秋祭り参加
12月1日	熱塩加納調査発表会 ワークショップ参加

私たちは「夢の森花の散歩みち実行委員会」に加入し、地域住民の会員の方々と共に活動を行った。あわせて、喜多方市元地域おこし協力隊である森田正明氏の協力を得て、フィールドワークにおける現地観察・ヒアリング調査、民泊を実施し、住民の方々との関係構築を通じて、より住民目線での地域理解に努めた。

今年度の調査は特に熱塩加納の地域資源の特性や、それらを活用する住民の活動、その強みを明らかにすることを試み、最終的には「熱塩加納の持つ魅力や底力が、いかに地域活性化につながっているのか」という点について考察した。

2. 夢の森花の散歩みち実行委員会との活動

夢の森花の散歩みち実行委員会（以下、散歩みち）では、野辺善市さんを中心に熱塩加納の地域活性化を目的として活動している。

散歩みちでは、地域資源の一つとして菊芋を 2017 年から栽培してきた。菊芋は主に 4 月ごろに植え付けを行なって 10 月ごろに収穫を行う。菊芋にはイヌリンという物質が多く含まれていて、それは腸内環境の改善や免疫力の向上、血糖値の上昇を緩やかにするなどの働きがある。こうした健康づくりを目的に栽培がはじめられた経緯がある。菊芋は生の菊芋として天ぷらなどで食べられるが、長期保存などの理由から菊芋パウダーや乾燥チップに利用されている。また、それら加工したものを地域の高校生が菊芋のお菓子などにして工夫をこらして販売を行っている。



写真1 菊芋



写真2 菊芋クッキー

菊芋と同様に、ヤマブドウは散歩みちの耕作地に植えられ、毎年9月ごろに収穫を行っている。収穫した後は枝木を取って実だけにし、ジュースやお酒に加工している。ヤマブドウの実本来酸っぱくて生では食べづらく、ジュースなどに加工することによりクセがなくさっぱりとした味わいになる。また、ジュースにして絞り終わったヤマブドウ実捨てるのではなく、染め物などに加工することができる。これらは販売せず、地域の中で楽しむにとどめている。



写真3 ヤマブドウ



写真4 ヤマブドウジュース

散歩みちでは夏には盆踊り、秋にはザルギクとコキアの秋祭りなどそれぞれの四季に合わせたお祭りが行われている。秋祭りでは、会員が自家栽培した大根や人参などの野菜を持ち寄って団子汁を作り、参加者に振舞っている。また、大人以外にも子供が楽しめるように輪投げやおみくじを催したりしている。積極的にコミュニケーションをとることで地域内外の人が楽しめる工夫も行われている。

このように散歩みちでは、菊芋、ヤマブドウなど地域資源を活用した活動を積極的に進めることで、会員同士の結束力を高めている。



写真5 祭りの様子



写真6 ザル菊コキアのライトアップ

3. まとめ

以上のような活動の基盤となる地域には多くの強みがある。特に散歩みちは、3つの特性が生かされて活動が行われている。1つ目は、地域の課題を自分事として捉えて活動する住民の多さが挙げられる。2つ目にはクイモやヤマブドウといった地域資源を大切にして、様々な場面で活用していることである。3つ目として散歩みちの会員や地域で活動する住民が地域への誇りをもっていることが挙げられる。これらで繋がる住民の存在は地域活性化に必要不可欠である。

今年度の活動と調査から私たちが見てきた地域は豊かな地域資源に囲まれ、住民の笑顔と魅力があふれる、可能性を秘めた地域であることが明らかになった。会員や民同士が地域への愛着を通して繋がることで地域色豊かな地域づくりが営まれていると考える。

最後に私たちのような外部の人間や若者が地域に関わることによって、地域資源に対する新たな視点を創出し、様々な連携が生まれることで、地域のつながりがより深くなる可能性を今年度の調査で実感することが出来た。また、外部人材や関係人口を巻き込んだ新たな地域づくりでは人口減少や高齢化といった課題に対する解決の糸口になるのではないかと考える。



写真7 ワークショップ後の集合写真